

ご存じですか？

塙保己一

渋沢栄一

荻野吟子



はなわ ほ せ いち  
**塙保己一** (1746~1821)

江戸時代に盲目の国学者として活躍

塙保己一は、延享3年(1746)に保木野村、現在の本庄市に生まれました。

7歳で病いにより失明し、12歳で母を亡くしました。15歳の時に江戸へ出て、その後学問の道を目指しました。

安永8年(1779)から、全国に散らばっていた多くの古い記録や史料を集めて分類、整理を41年間にわたって行い、670冊にまとめて出版するという大事業を成し遂げました。これが『群書類従』であり、今でも歴史研究に活用されています。

ヘレン・ケラーが来日して講演した際、塙保己一を「私の人生の目標とした人であり、心の支えです」と語っています。



しぶ さわ えい いち  
**渋沢栄一** (1840~1931)

日本の資本主義の基礎を築いた大実業家

渋沢栄一は、天保11年(1840)に血洗島村、現在の深谷市に生まれました。

慶応3年(1867)に渡欧して西欧先進諸国を歴訪し、経済制度や近代的技術を目の当たりにしました。帰国後、明治新政府に出仕して、租税事務の処理、新貨条例・造幣規則、国立銀行条例の起草立案などに当たりますが、ほどなく実業界に転進しました。

常に「論語」を処世の基本理念とし、道徳経済合一説を唱え、第一国立銀行をはじめ、鉄道・製紙・造船など500社にものぼる企業の設立・育成に関わりました。また、福祉や教育などの社会事業にも熱心に取り組み、600余りの社会事業に力を注ぎました。



おぎ の ぎん こ  
**荻野吟子** (1851~1913)

日本で最初の公認の女性医師

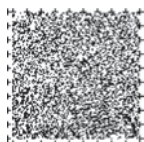
荻野吟子は、嘉永4年(1851)に俵瀬村、現在の熊谷市に生まれました。

東京の病院に入院し、婦人科の治療を受けたことがきっかけで、女性医師の必要性を痛感し、医師を目指して勉学に励みました。

しかし、当時は医師開業試験は女性に認められておらず、そのため制度の改革から取り組み、自身で拓いた試験の道を第一回目合格し、日本で最初の公認の女性医師となりました。

開業医として熱心に治療にあたったほか、女性の地位向上や衛生知識の普及にも大きく貢献しました。

音声コード



埼玉県県民生活部文化振興課

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

☎048-830-2884

埼玉の偉人ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/page/ijintop.html>



埼玉県のマスコット「コバトン」

埼玉ゆかりの  
三偉人

埼玉県には、私たちの心に深い感銘を与え続けている多くの先人がいます。

なかでも、自らの障害を乗り越えて「群書類従」の編纂など数多くの偉業を成し遂げた**塙保己一**、様々な企業の設立や育成に携わる一方で多くの社会事業にも尽力し、近代日本経済の礎を築いた**渋沢栄一**、新たな分野に果敢に挑戦し、日本の公認女医第1号となった**荻野吟子**の3人の生き方は、現代に生きる私たちの進むべき道を指し示してくれているのではないのでしょうか。

塙保己一(本庄市)  
国学者・「群書類従」の刊行



荻野吟子(熊谷市)  
日本の公認女医第1号  
※写真:熊谷市



渋沢栄一(深谷市)  
日本近代経済社会の父  
※写真:渋沢史料館所蔵